

学習指導要領		都立井草高校 学カスタンダード
<p>(1) 様々な地図と地理的技能</p> <p>地球儀や様々な地図の活用及び地域調査などの活動を通して、地図の有効性に気付かせるとともに、地理的技能を身に付けさせる。</p> <p>ア 地理情報と地図</p> <p>地球儀の活用、様々な時代や種類の世界地図の読図、地理情報の地図化などの活動を通して、各時代の人々の世界観をとらえさせるとともに地図の有用性に気付かせ、現代世界の地理的事象をとらえる地理的技能を身に付けさせる。</p> <p>イ 地図の活用と地域調査</p> <p>直接的に調査できる地域の地図を活用して多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特色をとらえる地理的技能を身に付けさせる。</p>	<p>①地球上の任意の2地点の緯度・経度をもとにして、2点の南北の位置関係および東西の位置関係を考えると同時に、簡単な時差の計算ができる。</p> <p>②世界地図は、作成された時代や地域の持つ世界観が関わっていることを理解する。</p> <p>③球面上の世界は、平面上の地図には距離・方位・角・面積の全てを正しく表現できないことを知る。</p> <p>④分布や密度をあらわす統計地図には正積図法で描かれた地図が適することがわかる。</p> <p>①地形図は地表の様子を描くために等高線と地図記号を用いていることを知る。</p> <p>②田・畑・果樹園・桑畑の地図記号を理解し、土地利用を読み取ることができる。</p> <p>③地形図は数年おきに修正、改訂されているため、旧版の地形図が存在することを知る。</p>	

学習指導要領	都立井草高校 学カスタンダード
<p>(2) 世界の自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教に関する諸事象の空間的な規則性、傾向性やそれらの要因などを系統地理的に考察させるとともに、現代世界の諸課題について地球的視野から理解させる。</p> <p>ア 自然環境 世界の地形、気候、植生などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や人間生活などのかかわりなどについて考察させるとともに、現代世界の環境問題を大観させる。</p> <p>イ 資源、産業 世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通、消費などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の資源・エネルギー、食料問題を大観させる。</p> <p>ウ 人口、都市・村落 世界の人口、都市・村落に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の人口、居住・都市問題を大観させる。</p>	<p>①環太平洋造山帯、アルプス＝ヒマラヤ造山帯からなる新期造山帯では、地震や火山が多くみられることを知る。</p> <p>②気温の水平的変化を緯度と合わせて考えることができる。</p> <p>③大気の大循環のしくみをふまえ、亜熱帯高圧帯と乾燥気候の分布概ね重なることを理解する。</p> <p>④地球上には砂漠化をはじめ様々な環境問題があることを知る。</p> <p>①世界の農業は、経営形態や規模によって分類できることを知る。</p> <p>②生産国、輸出国の統計資料や主題図から、米と小麦を判別できる。</p> <p>③工業は、原料産地と市場との位置関係によって、生産費用がもっとも少なくなる場所に立地する傾向があることを理解する。</p> <p>④工業生産力の高まりが、国や地域の経済発達につながることを知る。</p> <p>⑤主題図や統計資料をもとに、エネルギー資源や鉱産資源の生産地には偏在性があることを知る。</p> <p>⑥主題図や統計資料をもとに、世界の食料の需要と供給には大きな偏りがあることがわかる。</p> <p>①世界の人口増加の多くは発展途上国でおきていることを知る。</p> <p>②発展途上国において急速な都市人口の増加がおこっていることを知る。</p> <p>③先進国では出生率が低下していることを理解する。</p>

学習指導要領	都立井草高校 学カスタンダード
<p>エ 生活文化、民族・宗教</p> <p>世界の生活文化、民族・宗教に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や民族と国家の関係などについて考察させるとともに、現代世界の民族、領土問題を大観させる。</p>	<p>①キリスト教，イスラーム，仏教の大まかな分布と特徴を知る。</p> <p>②国家の領域が、領土、領海、領空からなることがわかる。</p> <p>③言語や宗教が異なる民族が一つの国家の中に存在する国があることがわかる。</p> <p>④日本の領土をめぐる問題の存在を知る。</p>

学習指導要領		都立井草高校 学カスタンダード
<p>現代世界の諸地域を多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解させるとともに、現代世界を地誌的に考察する方法を身に付けさせる。</p> <p>ア 現代世界の地域区分 現代世界を幾つかの地域に区分する方法や地域の疑念、地域区分の意義を理解させるとともに、その有用性に気付かせる。</p> <p>(3) 現代世界の地誌的考察</p> <p>イ 現代世界の諸地域 現代世界の諸地域を取り上げ、歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造を考察し、それらの地域にみられる地域的特色や地球的課題について理解させるとともに、地誌的に考察する方法を身に付けさせる。</p> <p>ウ 現代世界と日本 現代世界における日本の国土の特色について、多面的・多角的に考察し、我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて展望させる。</p>	<p>①さまざまな指標を用いることで、さまざまな地域区分の方法があることを知る。</p> <p>②ユーラシア大陸をヨーロッパとアジアに分けて考えることができ、かつアジアを東・東南・南・西・中央の5地域に区分できる。</p> <p>③アフリカを北アフリカと中南アフリカに区分できることを理解する。</p> <p>①例えば、2000年以降の中国で見られた経済の急速な発展と社会の変化を理解する。</p> <p>②例えば、アフリカにおける民族対立の原因の大きなものに、植民地時代の列強による線引きがあることを理解する。</p> <p>③例えば、ヨーロッパ諸国がEUという国家間統合組織に向かっていることを理解する。</p> <p>④例えば、アメリカの農業が、東西に地域区分できることを理解する。</p> <p>⑤例えば、オーストラリアがアジア地域との関係を深めていることを理解する。</p> <p>①日本の自然環境の特色を理解し、過去に多くの自然災害について自然災害に見舞われてきたことを知る。</p> <p>②日本の産業構造の変化を、明治前半、大正から戦前まで、戦後1970年代まで、1980年代以降に大別して理解する。</p> <p>③日本のエネルギー問題について、その特徴を理解する。</p>	

